

塩竈市立病院事業会計

予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予算現額	うち繰越 財源充当額	決算額	予算額に比べ 決算額の増減	執行率
病院事業収益	3,012,826,000	0	3,002,565,659	10,260,341	99.65
医業収益	2,562,030,000	0	2,544,377,533	17,652,467	99.31
医業外収益	181,877,000	0	191,562,495	9,685,495	105.32
特別利益	268,919,000	0	266,625,631	2,293,369	99.14

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予算現額	決算額	翌年 繰越 年度 額	不用額	執行率
病院事業費用	2,813,328,000	2,805,951,188	0	7,376,812	99.73
医業費用	2,745,641,000	2,740,140,490	0	5,500,510	99.79
医業外費用	54,687,000	54,503,689	0	183,311	99.66
特別損失	13,000,000	11,307,009	0	1,692,991	86.97

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

収益的収入

予算現額 3,012,826,000 円に対し、決算額 3,002,565,659 円で、執行率 99.65%となっている。

収益的支出

予算現額 2,813,328,000 円に対し、決算額 2,805,951,188 円で、執行率 99.73%となって、7,376,812 円の不用額が生じ決算されている。

- [主な不用額]
- ・給与費 3,818 千円 (賃金 2,489 千円、報酬 1,326 千円)
 - ・材料費 512 千円 (薬品費 483 千円)
 - ・経費 874 千円 (委託料 472 千円、諸会費 127 千円)
 - ・資産減耗費 262 千円 (棚卸資産減耗費 261 千円)
 - ・特別損失 1,693 千円 (過年度損益修正損 1,693 千円)

2 資本的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予算現額	予算現額うち法第26条の繰越額に係る財源充当額	決算額	予算額に比べ決算額の増減	執行率
資本的収入	326,256,000	145,000,000	300,424,653	25,831,347	92.08
他会計出資金	146,256,000	0	134,081,653	12,174,347	91.67
他会計補助金	35,000,000	0	35,000,000	0	100.00
国庫補助金	103,700,000	103,700,000	90,543,000	13,157,000	87.31
企業債	41,300,000	41,300,000	40,800,000	500,000	98.78

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予算現額	予算現額うち法第26条の規定による繰越額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	520,535,000	145,060,000	494,643,475	0	25,891,525	95.02
建設改良費	165,060,000	145,060,000	139,169,100	0	25,890,900	84.31
企業債償還金	320,475,000	0	320,474,375	0	625	99.99
長期借入金償還金	35,000,000	0	35,000,000	0	0	100.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

資本的収入

予算現額 326,256,000 円に対し、決算額 300,424,653 円で執行率は、92.08%となっている。

なお、予算現額のうち 145,000,000 円は、地方公営法第 26 条の規定による繰越額にかかる財源充当額である

資本的支出

予算現額 520,535,000 円に対し、決算額 494,643,475 円で執行率は 95.02%となっているが、予算現額のうち 145,060,000 円は地方公営企業法第 26 条の規定による前年度の繰越額で、不用額は 25,891,525 円となっている。

建設改良費の内訳は、施設購入費としてフィルムデジタイザ、生体情報モニタシステム等の医療機器の購入 7,675,500 円、施設改良費として病院耐震補強工事、耐震補強工事監理業務委託等の 131,493,600 円である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 194,218,822 円は、当年度分損益勘定留保資金をもって補てんしている。

経営成績

平成18年度から平成22年度までの経営成績は、次表のとおりである。

消費税を除いた本年度の収益的収支は、196,614,471円の純利益となって決算されている。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

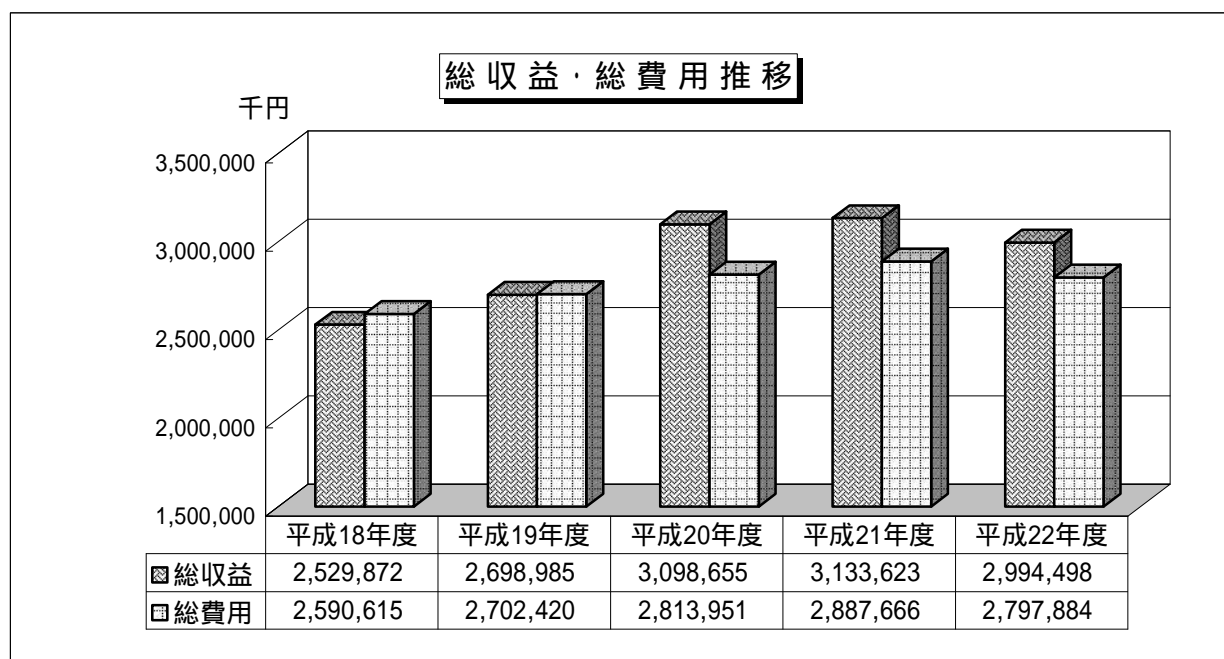
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A)/(B)
	金 額 (A)	すう勢 比 率	金 額 (B)	すう勢 比 率		
平成18年度	2,529,872,932	100.0	2,590,615,609	100.0	60,742,677	97.7
平成19年度	2,698,985,618	106.7	2,702,420,200	104.3	3,434,582	99.9
平成20年度	3,098,655,332	122.5	2,813,951,171	108.6	284,704,161	110.1
平成21年度	3,133,623,331	123.9	2,887,666,516	111.5	245,956,815	108.5
平成22年度	2,994,498,279	118.4	2,797,883,808	108.0	196,614,471	107.0

(注) すう勢比率は18年度を基準年度とする。

また、平成18年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成18年度を比率100としたすう勢比率で見ると、前年度と比較し総収益で5.5ポイント下回った118.4%となり、総費用は3.5ポイント下回った108.0%となっている。

また、収支比率は前年度に比べ1.5ポイント下回った107.0%となり、収支差引では純利益196,614,471円となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		平 成 22 年 度		平 成 21 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,578,454,917	52.7	1,554,206,118	49.6	24,248,799	1.6
	外 来 収 益	693,653,567	23.2	746,294,840	23.8	52,641,273	7.1
	そ の 他 医 業 収 益	264,991,001	8.8	262,088,668	8.4	2,902,333	1.1
	計	2,537,099,485	84.7	2,562,589,626	81.8	25,490,141	1.0
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	116,295,347	3.9	236,146,422	7.5	119,851,075	50.8
	他 会 計 補 助 金	58,155,178	2.0	53,300,909	1.7	4,854,269	9.1
	患 者 外 給 食 収 益	590,500	0.0	626,640	0.0	36,140	5.8
	そ の 他 医 業 外 収 益	15,674,968	0.5	15,776,689	0.5	101,721	0.6
	国 庫 補 助 金	0	-	2,794,000	0.1	2,794,000	皆 減
	県 補 助 金	59,000	0.0	0	-	59,000	皆 増
	計	190,774,993	6.4	308,644,660	9.8	117,869,667	38.2
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	7,404,979	0.2	4,522,650	0.2	2,882,329	63.7
	他 会 計 補 助 金	259,218,822	8.7	257,866,395	8.2	1,352,427	0.5
	計	266,623,801	8.9	262,389,045	8.4	4,234,756	1.6
合 計		2,994,498,279	100.0	3,133,623,331	100.0	139,125,052	4.4

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で139,125,052円(4.4%)の減収となっている。

これは、入院収益24,248,799円(1.6%)等で増収したが、外来収益52,641,273円(7.1%)、医業外収益の
他会計負担金119,851,075円(50.8%)、国庫補助金2,794,000円(皆減)等が減少となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度比率	平成20年度	平成19年度	平成18年度
年延入院患者数	57,370	56,304	101.9	52,881	47,209	44,158
年延外来患者数	74,574	76,034	98.1	74,096	75,901	75,409
合 計	131,944	132,338	99.7	126,977	123,110	119,567

本年度の年延入院患者数は、57,370人、一日平均157人で、前年度より延患者数1,066人、一日平均3人の増加。年延外来患者数は74,574人、一日平均307人で、前年度より延患者数1,460人、一日平均7人の減少となっている。

次に患者一人当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度比較増減	21年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入(円)	17,220	17,384	164	20,092
” 入院収入(円)	27,514	27,604	90	38,272
” 外来収入(円)	9,302	9,815	513	10,189
外来入院患者比率(%)	130.0	135.0	5.0	183.6
病床利用率(%)	97.6	95.8	1.8	73.5

(注)年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成21年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は27,514円で90円(0.3%)、外来収入は9,302円で513円(5.2%)下回っている。平成21年度の年鑑指標と比較すると入院収入で10,758円、外来収入で887円下回っている。

また、外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ5.0ポイント下回っている。このことは、外来患者の減少と入院患者の増加によるものである。(審査資料別表2参照)

3 費用

費用比較表

(単位:円、%)

年度 区分	平成22年度		平成21年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,715,568,549	97.1	2,808,272,323	97.2	92,703,774	3.3
医業外費用	71,056,596	2.5	71,301,474	2.5	244,878	0.3
特別損失	11,258,663	0.4	8,092,719	0.3	3,165,944	39.1
合計	2,797,883,808	100.0	2,887,666,516	100.0	89,782,708	3.1

費用を前年度と比較してみると、特別損失で3,165,944円(39.1%)増加したが、医業費用で92,703,774円(3.3%)、医業外費用で244,878円(0.3%)減少したことにより、費用合計では前年度より89,782,708円(3.1%)減少している。(審査資料別表3・4参照)

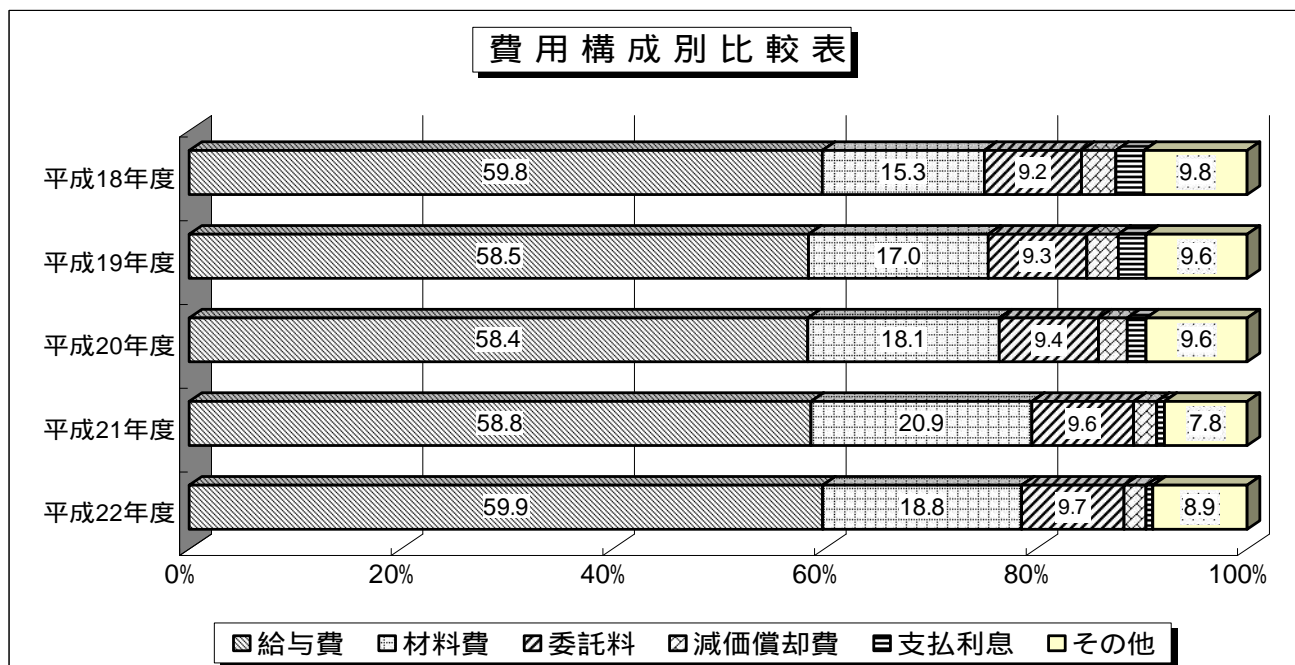
これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費用構成別比較表

(単位:円、%)

年度 区分	平成22年度		平成21年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,675,837,167	59.9	1,698,787,995	58.8	22,950,828	1.4	
材料費	525,538,210	18.8	603,996,546	20.9	78,458,336	13.0	
委託料	271,114,644	9.7	277,088,777	9.6	5,974,133	2.2	
減価償却費	58,304,738	2.1	63,502,149	2.2	5,197,411	8.2	
支払利息	17,761,270	0.6	20,726,923	0.7	2,965,653	14.3	
その他	賃借料	72,756,696	2.6	65,439,907	2.3	7,316,789	11.2
	光熱水費	58,567,855	2.1	48,673,966	1.7	9,893,889	20.3
	修繕費・工事費	13,118,919	0.5	11,427,671	0.4	1,691,248	14.8
	その他	104,884,309	3.7	98,022,582	3.4	6,861,727	7.0
	計	249,327,779	8.9	223,564,126	7.8	25,763,653	11.5
合計	2,797,883,808	100.0	2,887,666,516	100.0	89,782,708	3.1	

費用構成別比較表



構成別で前年度より増加した主なものは、光熱水費 9,893,889 円(20.3%)、賃借料 7,316,789 円(11.2%) 等である。一方、減少した主なものは、材料費 78,458,336 円(13.0%)、給与費 22,950,828 円(1.4%)、委託料 5,974,133 円(2.2%)、減価償却費 5,197,411 円(8.2%)等である。

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率を求めれば次表のとおりである。

区 分	平成22年度	平成21年度	平成21年度 年鑑指標	算 式
総資本利益率 (%)	3.44	0.50	0.45	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.49	1.54	0.57	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	2.32	0.33	0.78	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

(注) ・総資本 = 負債資本合計 ・年平均総資本 = (期首総資本 + 期末総資本) ÷ 2

- ・総資本利益率 (経営業績、収益性を示す、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)
- ・総資本回転率 (高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)
- ・医業収益利益率 (医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、前年度より 2.94 ポイント下回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率が 0.05 ポイント、医業収益利益率が 1.99 ポイント下回ったことに起因している。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	平成22年度	平成21年度	平成21年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率(%)	93.43	91.25	91.95	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率(%)	97.89	99.71	96.46	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率(%)	107.03	108.52	96.63	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成21年度全国平均値である。

比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率(総体的経営活動の能率を示す)では、年鑑指標を10.40ポイント上回っている。

これは、医業収支比率(業務活動の能率を示す)で1.48ポイント、経常収支比率(経常経営活動の能率を示す)で1.43ポイント上回っていることによるものである。

財 政 状 態

平成22年度末の財政状態は、審査資料別表5に示すとおりである。

また、本年度の財務活動を明らかにするため、資金の移動状態を表示する正味運転資金基準の資金運用表を作成すると、次表のとおりである。

資 金 運 用 表

(単位:円)

使 途		源 泉	
項 目	金 額	項 目	金 額
建物(耐震補強工事)取得	125,232,000	自己資本金	134,081,653
器械備品の取得	7,310,000	国庫支出金	90,543,000
企業債の償還金(特例債)	194,218,822	その他資本剰余金	35,000,000
他会計借入金	35,000,000	減価償却費	58,304,738
企業債	126,255,553	当年度純利益	196,614,471
正味運転資本の増加	67,327,487	企業債	40,800,000
合 計	555,343,862	合 計	555,343,862

(注) 審査資料別表6 資金運用精算表参照

本年度の資金の流れは、資金運用表に示すとおり流入した資金の合計は、555,343,862円で、その主なものは、自己資本金、当年度純利益などである。一方、用途は、建物(耐震補強工事)、企業債の償還金(特例債)等の合計488,016,375円であったことから、残金67,327,487円は正味運転資本の増加となって表れている。

この正味運転資本の増加をみるために、正味運転資本増減明細表を作成すると次表に示すとおりである。

正味運転資本増減明細表

(単位:円)

増	加	減	少
項 目	金 額	項 目	金 額
未収金の増加	46,586,950	現金及び預金の減少	49,256,624
貯蔵品の増加	990,225	預り金の増加	3,559,963
一時借入金の減少	50,000,000		
未払金の減少	22,566,899		
		正味運転資本の増加	67,327,487
合 計	120,144,074	合 計	120,144,074

正味運転資本の増加は、表に示すとおり未収金の増加、現金及び預金の減少等である。

なお、年度末現在の不良債務額の推移は、次のとおりである。

(単位:円)

	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
年度末不良債務額	205,400,198	272,727,685	390,194,229	2,130,186,067	2,207,196,439
対前年度増減額	67,327,487	117,466,544	1,739,991,838	77,010,372	224,256,929
不良債務比率(%)	8.10	10.64	17.10	97.43	114.74

$$\text{不良債務比率(\%)} = \frac{\text{不良債務額}}{\text{医業収益}} \times 100$$

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区 分	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成21年度 年鑑指標	算 式
流動比率	73.54	67.73	57.11	253.01	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自己資本比率	38.25	67.25	85.41	34.03	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固定資産対長期資本比率	121.27	133.09	151.83	84.63	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$

- ・流動比率（短期支払能力を示す、200%以上が望ましく最低限度100%が必要である）
- ・自己資本構成比率（経営の安全性を示す、比率が大であれば経営の安全性が大である）
- ・固定資産対長期資本比率（固定資産の調達状態を示す、100%以下であることが要請される）

これらの比率を年鑑指標と比較すると、いずれも最低限度を超えているが、徐々に改善の兆しがみられる状況となっている。

病院改革プラン数値目標との比較

塩竈市立病院改革プランの全体計画期間は、平成21年度から平成27年度までの7年間であるが、平成23年度以内に収支均衡の目処が立たない場合は、改めて、塩竈市立病院の経営形態のあり方を検討することになっている。

財務に係る数値を中心に平成19年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分		年 度				
		22年度	21年度	20年度	19年度	
経常収支比率	(%)	決算数値	97.9	99.7	94.2	90.8
		数値目標	99.2	100.2	92.5	90.8
		差 額	1.3	0.5	1.7	0.0
医業収支比率	(%)	決算数値	93.4	91.3	84.9	84.9
		数値目標	93.7	91.6	83.3	84.9
		差 額	0.3	0.3	1.6	0.0
職員給与費対医療収益比率	(%)	決算数値	51.4	52.3	58.4	58.6
		数値目標	55.8	54.7	59.8	58.6
		差 額	4.4	2.4	1.4	0.0
病床利用率	(%)	決算数値	97.6	95.8	72.8	64.8
		数値目標	97.3	92.4	70.7	64.8
		差 額	0.3	3.4	2.1	0
1日平均入院患者数	(人)	決算数値	157.2	154.3	144.9	129.4
		数値目標	156.7	148.7	140.7	129.4
		差 額	0.5	5.6	4.2	0
1日平均外来患者数	(人)	決算数値	306.9	314.2	304.9	309.8
		数値目標	307.8	307.8	300.9	309.8
		差 額	0.9	6.4	4.0	0.0
入院患者1人1日あたり診療単価	(円)	決算数値	27,514	27,604	26,641	28,142
		数値目標	27,500	27,500	27,207	28,142
		差 額	14	104	-566	0
外来患者1人1日あたり診療単価	(円)	決算数値	9,302	9,815	8,818	8,605
		数値目標	9,156	9,156	8,727	8,605
		差 額	146	659	91	0
救急患者数	(件)	決算数値	1,160	883	689	577
		数値目標	900	800	700	577
		差 額	260	83	-11	0
経常損益	(千円)	決算数値	58,751	8,340	162,537	248,129
		数値目標	22,704	5,659	210,880	248,131
		差 額	36,047	13,999	48,343	2
純利益	(千円)	決算数値	196,614	245,956	284,704	3,434
		数値目標	226,245	252,205	236,220	3,436
		差 額	29,631	6,249	48,484	2
一般会計からの繰入金	(円)	決算数値	722,182	722,839	910,000	662,000
		数値目標	735,934	737,169	910,000	662,000
		差 額	13,752	14,330	0	0
不良債務比率	(%)	決算数値	8.1	10.6	17.1	97.4
		数値目標	8.1	12.1	19.2	97.4
		差 額	0	1.5	2.1	0.0

む す び

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は1,066人(1.9%)増の57,370人、外来患者数は1,460人(1.9%)減の74,574人となった。また、病床利用率は前年度の95.8%から1.8ポイント増の97.6%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入は139,125,052円(4.4%)減の2,994,498,279円、総支出では89,782,708円(3.1%)減の2,797,883,808円で収支差引196,614,471円の純利益で決算されているが、前年度より純利益が49,342,344円(20.1%)減となっている。

前年度と比べた総収入の減139,125,052円の内訳は、入院収益24,248,799円(1.6%)、医業外収益の他会計補助金4,854,269円(9.1%)などで増となったが、外来収益52,641,273円(7.1%)、医業外収益の他会計負担金119,851,075円(50.8%)などの減によるものである。

総支出の減89,782,708円の内訳は、医業費用の経費14,663,368円(3.4%)、医業外費用の雑損失2,714,395円(5.5%)、特別損失の過年度損益修正損3,165,944円(39.1%)で増となったが、医業費用の給与費22,950,828円(1.4%)、材料費78,458,336円(13.0%)、減価償却費5,197,411円(8.2%)などの減によるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では246,194,785円(454.0%)増の300,424,653円、総支出では247,547,212円(100.2%)増の494,643,475円で収支差引の不足額194,218,822円は当年度分損益勘定留保資金で補てんし決算されている。総収入増の主な内訳は、前年度からの繰越額に係る財源充当額の国庫補助金(医療施設耐震化臨時特例基金事業補助金)90,543,000円、企業債40,800,000円などによるものである。また、総支出の増は病院耐震補強工事に係る建設改良費の前年度繰越額131,493,600円、診療棟建築繰上償還借換債の元金償還金126,255,553円が開始したことによるものである。

今年度の数値と市立病院改革プランの主な収支計画数値目標を比較すると経常損失額、純利益額、不良債務額などが目標額を下回った。一方、耐震工事期間にもかかわらず1日平均入院患者数、病床利用率、1日あたりの診療単価額(入院・外来)などで数値目標を上回り、また、支払不能の債務比率である不良債務比率の目標率8.1%と同率となったことについて、病院管理者をはじめとする職員の努力を評価いたしたい。今後も、経費節減や部門別原価計算の検証などの経営分析を積極的に行い、常に経営状況を的確に把握していく努力をお願いしたい。

なお、今回の東日本大震災時では、平成23年2月に病院耐震補強工事が完了していたことにより最小限の被害にとどまった。震災直後の診療では、ライフラインが停止するなかで職員が一丸となって救急患者受入を中心とした診療体制、入院患者食の確保等に尽力したところであるが、今回の震災を教訓に、改めて災害時における地域医療としての役割等を検証し、より一層公立病院として市民の皆さんに安心・安全な医療の提供を担ってほしいと切望するものである。